

第 3 次健康増進計画
～R6 年度進捗評価～

R7 年 9 月作成

健康増進計画施策分野別の指標と事業一覧

政策分野：生活習慣の改善

施策分野	ライフステージ	市の取組	事業	担当課
Ⅰ 栄養・食生活	妊娠期 乳児期 幼児期	・妊娠中から産後の栄養についての保健指導や健康教育	母子手帳発行（個別栄養指導）	健康課
			伴走型相談支援事業（8か月児アンケート）	健康課
			母親父親教室（快適マタニティライフ編）	健康課
			産後ケア事業（ママはぐ）	健康課
			思春期対策事業	健康課
		・乳幼児の食生活についての健康教育・健康相談	1歳6か月児健診、3歳児健診（リーフレット配付）	健康課
			2歳児歯科健診（集団指導）	健康課
			離乳食教室（5，6か月、7，8か月、9～1，6Y）	健康課
			子どもの生活習慣病予防対策事業（巡回教室）	健康課
	・乳幼児の食に関する普及啓発	親子食育事業（レシピ公開、動画配信）	健康課	
	学童期 思春期	・小中学校における健康教育	健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる指導	教育指導課
		・小中学校における食育	食事の重要性、喜び、楽しさ等の食に関する指導	教育指導課
		・公民館事業での食育の推進	児童・生徒地域参加事業、家庭教育学級、自主事業等	中央公民館
	青年期 壮年期 高齢期	・生活習慣病予防・健康づくりの食生活に関する健康教育・健康相談	イベントでの食育体験・栄養相談	健康課
			健康講話（慢性腎臓病講座での試食の提供）	健康課
			健康相談（ヘルスアップ相談、高血圧予防相談での栄養相談、女性の健康づくりプロジェクト）	健康課
			自分で作ろう！映えランチ	健康課
			高血圧予防の食生活に関する講話	健康課
食生活改善推進員養成・育成			健康課	
・適正体重維持のための食生活の普及啓発		高齢者の食生活改善についての健康相談	保険年金課	
		健康チャレンジ食生活改善事業	保険年金課	
		高齢者の低栄養ハイリスク者対策	保険年金課	

			肥満予防・改善教室（すっきりボディでの食事の提供）	健康課
			母子手帳発行（個別栄養指導）	健康課
			思春期講座	健康課
			母親父親教室（快適マタニティライフ編）	健康課
		・地域の健康づくりのための活動支援	地域健康づくり支援事業（依頼事業）	健康課
			健康チャレンジ普及啓発事業	保険年金課

施策分野	ライフステージ	市の取組	事業	担当課
2 歯と口腔の健康	妊娠期 乳児期 幼児期	・歯科健康診査	歯科健康診査	健康課
		・乳幼児のおし歯予防の知識の普及	歯みがき教室	健康課
			地域健康づくり支援事業	健康課
	学童期 思春期	・歯の健康に関する普及啓発	歯の衛生に関する図画・ポスター及び歯科保健啓発標語表彰	学務課
		・小中学校における歯科検診・歯科健康教育	学校歯科巡回指導	学務課
			歯科検診	学務課
	青年期 壮年期 高齢期	・歯科健康診査	歯科健康診査	健康課
		・歯科健康教育・健康相談	歯っぴい歯みがき教室（保護者向け講話）	健康課
			永久歯萌出期歯科保健事業（保護者参観）	健康課
			歯科健康教室	健康課
			地域健康づくり支援事業	健康課
			生活保護受給者に対する健康管理支援事業	健康課
			健康相談	健康課
			高齢者の歯や口腔に関する健康相談	保険年金課
		介護予防・生活支援サービス事業（訪問サービスC）	地域包括ケア推進課	
		・歯科疾患予防についての普及啓発	歯科健康教室	健康課
		・オーラルフレイルの普及啓発	フレイル対策推進事業	保険年金課
			健康チャレンジ普及啓発事業	保険年金課
	介護予防・生活支援サービス事業（訪問サービスC）		地域包括ケア推進課	

施策分野	ライフステージ	市の取組	事業	担当課
3 身体活動・運動	乳児期 幼児期	・幼児健康診査における普及啓発・保健指導	1歳6か月児健診・3歳児健診（外遊びの重要性についての周知）	健康課
		・子どもの生活習慣病予防のための健康教育	子どもの生活習慣病予防対策事業	健康課
			幼稚園・保育園サッカー巡回教室、親子サッカー教室、幼児交流サッカー大会	スポーツ課
	学童期 思春期 青年期 壮年期 高齢期	・子どもの生活習慣病予防のための普及啓発	生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培う指導	教育指導課
		・小中学校における健康教育	手話ダンスにおける健康づくり事業	スポーツ課
			小学校体育サッカー巡回授業	スポーツ課
			健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる指導	教育指導課
		・児童・生徒の運動習慣をつけるための場の提供	学校体育施設開放事業	スポーツ課
			小学校プール開放事業	スポーツ課
		・生涯スポーツの推進のための機会の提供	少年少女スポーツ大会	スポーツ課
			平塚市民・大学交流スポーツフェスタの開催	スポーツ課
		・スポーツを楽しむ環境づくり	スポーツ施設活用事業	スポーツ課
		・スポーツ活動の普及啓発	スポーツ用具の貸し出し	スポーツ課
			ポータルサイト「平塚スポーツナビ」の運営によるスポーツ情報の提供（イベント・団体・施設情報等）	スポーツ課
			・スポーツ・レクリエーション活動の場の提供	各種スポーツ大会開催事業
		ひらつかパラスポーツフェスタの開催		スポーツ課
		各種スポーツ施設管理運営事業		総合公園課
		・地区住民の親睦や健康増進のための機会	ひらつか市民スポーツフェスティバル開催事業	スポーツ課

	の提供	市民総合体育大会開催事業	スポーツ課
		市民体育レクリエーション地区大会	中央公民館
	・生活習慣病予防のための運動の健康教育・健康相談	肥満予防・改善教室（すっきりボディを手に入れたいあなたへ）	健康課
		運動体験教室（運動習慣のきっかけづくり教室）	健康課
		イベントでの体験機会の提供（健康・食育フェスタ）	健康課
		健康相談（ヘルスアップ相談、高血圧予防相談、女性の健康づくりプロジェクト）	健康課
		健康推進員養成・育成講座	健康課
		健康づくり推進員事業（健康推進員主催の講座・健康ウォーキング）	健康課
		・生活習慣病予防のための運動の普及啓発	イベントでの情報発信（健康・食育フェスタ）
	企業と連携したアプリ等を活用した運動の普及啓発		健康課
	・地域の健康づくりのための活動支援	企業や地域団体の依頼による運動に関する健康教育（企業向け出張健康ミニセミナーを含む）	健康課
		地域リハビリテーション活動支援事業	保険年金課
		健康チャレンジ地域活動支援事業	保険年金課
	・高齢者の社会参加促進のための活動支援	フレイル対策推進事業	保険年金課
		ひらつか元気応援ポイント事業	地域包括ケア推進課
	・身体機能の低下を防ぐための知識の習得と実践の場の提供	フレイル対策推進事業	保険年金課
		地域リハビリテーション活動支援事業	保険年金課
		通所型サービスC事業	地域包括ケア推進課

施策分野	ライフステージ	市の取組	事業	担当課
4 休養・こころの健康	乳児期 幼児期	・幼児健康診査における普及啓発・保健指導	1歳6か月児健診・3歳児健診(生活リズムを整える必要性の周知)	健康課
		・子どもの生活習慣病予防のための健康教育	子どもの生活習慣病予防対策事業(生活リズムを整える必要性の周知)	健康課
	学童期 思春期 青年期 壮年期 高齢期	・小中学校における健康教育	生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培う指導	教育指導課
		・悩みやストレスへの対処方法の教育	生き方・命の大切さを学ぶ機会の提供	福祉総務課
			生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培う指導	教育指導課
		・悩みを相談できる窓口の情報提供	いのちとくらしの総合相談会の開催	福祉総務課
			自殺対策に関する周知啓発の強化	福祉総務課
		・休養に関する健康教育	健康講話	健康課
			生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培う指導	教育指導課
		・睡眠やこころの健康に関する健康相談	健康相談(ヘルスアップ相談等の来所、所内指導)	健康課
		・地域の健康づくりのための活動支援	企業や地域団体の依頼による健康教育	健康課
		・介護者のストレス軽減や介護技術の向上のための機会の提供	家族介護リフレッシュ事業	高齢福祉課
			家族介護教室	高齢福祉課
		・定年退職後の世代を対象とした学習機会の提供	シニア学級	中央公民館

施策分野	ライフステージ	市の取組	事業	担当課
5 飲酒	妊娠中 乳児期 幼児期	・妊娠中の飲酒による影響に関する健康相談	母子保健事業(母子健康手帳の交付・電話相談など)	健康課
		・妊娠中の飲酒による影響に関する健康教育	母子保健事業(母親父親教室・父子手帳や新婚パンフレットの配布など)	健康課
			市ホームページ、市公式LINE送信、イベントでの情報発信(健康・食育フェスタ、東海大学グローバルフェスタ) など	健康課
	学童期 思春期 青年期 壮年期 高齢期	・地域における飲酒の教育指導	愛護指導における20歳未満飲酒者への声かけ及び指導	青少年課
		・生活習慣病予防と飲酒に関する健康教育、健康相談	健康相談(ヘルスアップ相談、高血圧予防相談)	健康課
			イベントでの情報発信(健康・食育フェスタ、東海大学グローバルフェスタ)	健康課
			生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培う指導	教育指導課
		・「生活習慣病のリスクを高める飲酒量」についての普及啓発	イベントでの情報発信(健康・食育フェスタ、東海大学グローバルフェスタ)	健康課
	市ホームページでの情報発信	健康課		

施策分野	ライフステージ	市の取組	事業	担当課
6 喫煙	妊娠期 乳児期 幼児期	・妊娠中の喫煙の健康への影響に関する健康相談	母子保健事業(母子健康手帳の交付・電話相談など)	健康課
		・妊娠中の喫煙による影響に関する健康教育	母子保健事業(母親父親教室・父子手帳や新婚パンフレットの配布など)	健康課
			市ホームページ、市公式LINE送信、イベントでの情報発信(健康・食育フェスタ、東海大学グローバルフェスタ) など	健康課
	学童期 思春期 青年期 壮年期 高齢期	・地域における喫煙の教育指導	愛護指導における20歳未満喫煙者への声かけ及び指導	青少年課
		・喫煙による健康への影響(がん、COPD等)に関する健康教育	健康講話(睡眠時無呼吸症候群、慢性腎臓病予防、睡眠、循環器予防)	健康課
			FM湘南ナパサを活用した情報発信	健康課

			市ホームページ、市公式 LINE を活用した情報発信	健康課
			イベント（健康・食育フェスタ、東海大学グローバルフェスタ）での情報発信	健康課
			生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培う指導	教育指導課
		・生活習慣病予防と喫煙に関する健康相談	健康相談（ヘルスアップ相談、高血圧予防相談）	健康課
		・禁煙したい人が受けられる支援に関する普及啓発	イベント（健康・食育フェスタ、東海大学グローバルフェスタ）での情報発信	健康課
			市ホームページ、市公式 LINE を活用した情報発信	健康課

施策分野	ライフステージ	市の取組	事業	担当課
7 がん	青年期 壮年期 高齢期	・がん検診	がん検診普及啓発事業	健康課
		・がんの予防対策の普及啓発	健康診査事業	健康課
			イベント（健康・食育フェスタ）や FM ナパサ湘南での情報発信	健康課
			運動体験教室（女性限定の運動習慣のきっかけづくり教室）	健康課
		・肝炎ウイルス検診・子宮頸がんワクチンの普及啓発（感染予防）	肝炎ウイルス検診普及啓発事業	健康課
			子宮頸がんワクチンの普及啓発事業	健康課

政策分野：生活習慣病の発症予防・重症化予防

施策分野	ライフステージ	市の取組	事業	担当課
8 生活習慣病 (高血圧等)	青年期 壮年期 高齢期	・生活習慣病予防（高血圧等）のための健康教育	健康講話（睡眠時無呼吸症候群、慢性腎臓病予防、睡眠、循環器予防）	健康課
			肥満予防・改善教室（すっきりボディを手に入れたあなたへ）	健康課
			運動体験教室（運動習慣のきっかけづくり教室）	健康課
			イベント（健康・食育フェスタ）での情報発信、運動体験機会の提供	健康課
			健康推進員主催事業での高血圧予防の健康教育	健康課
			健康推進員養成・育成講座	健康課
			食生活改善推進員養成講座・育成事業	健康課
			高血圧予防の食生活に関する講話	健康課
			企業向け出張健康ミニセミナー	健康課
			地域職域連携事業（企業を対象とした内臓脂肪測定会）	健康課
			健診結果説明会	保険年金課
		・生活習慣病予防（高血圧等）のための健康相談	健康相談（ヘルスアップ相談、高血圧予防相談、女性の健康づくりプロジェクト、所内指導）	健康課
		・生活習慣病予防・重症化予防の普及啓発	チラシ（血圧クイズ・家庭血圧測定）、市ホームページでの情報発信	健康課
			FM湘南ナパサ、市公式LINEを活用した情報発信	健康課
			健康づくり推進事業（健康推進員主催講座等）を活用した高血圧の普及啓発	健康課
			地域職域連携モデル事業を活用した家庭血圧測定の普及啓発	健康課
		・特定健康診査	特定健康診査	保険年金課
			35歳健康診査	保険年金課
			生活保護受給者等健康診査（40～74歳）	健康課
		・特定保健指導	特定保健指導	保険年金課
		・後期高齢者健康診査	後期高齢者健康診査	保険年金課
			生活保護受給者等健康診査（75歳以上）	健康課
		・生活習慣病重症化予防のための保健指導	糖尿病重症化予防のための健康相談	保険年金課
			健診異常値放置者・治療中断者対策	保険年金課
			健診異常値放置者・治療中断者対策	保険年金課

政策分野：生活機能の維持・向上

施策分野	ライフステージ	市の取組	事業	担当課
9 フレイル予防	壮年期 高齢期	フレイル予防の普及啓発（栄養（食・口腔機能））	フレイル対策推進事業	保険年金課
		フレイル予防の普及啓発（運動）	フレイル対策推進事業	保険年金課
		フレイル予防の普及啓発（社会参加）	フレイル対策推進事業	保険年金課

施策分野	ライフステージ	市の取組	事業	担当課
10 骨粗しょう症予防	学童期 思春期 青年期 壮年期 高齢期	骨粗しょう症予防のための生活・栄養指導	（指標 1-(5)~(6)「栄養・食生活」の事業と同様	教育指導課、中央公民館、健康課、保険年金課
			（指標 1-(7)~(12)「栄養・食生活」の事業と同様）	
			（指標 3-(2)~(5)「身体活動・運動」の事業と同様）	総合公園課
			（指標 3-(6)~(8)「身体活動・運動」の事業と同様）	地域包括ケア推進課、総合公園課
			骨密度測定における生活・栄養指導	健康課

各政策分野の進捗

政策分野： 生活習慣の改善

I 栄養・食生活

【妊娠期、乳幼児期、幼児期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
妊娠期 乳幼児期 幼児期	①適正体重の維持を目指そう ②主食・主菜・副菜を組み合わせたバランスのよい食事を食べよう ③食塩を摂りすぎないようにしよう	①妊娠中から産後の栄養についての保健指導や健康教育 ②乳幼児の食生活についての健康教育・健康相談 ③乳幼児の食に関する普及啓発				
指標		現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度
肥満者の割合（肥満度15%以上）	3歳児	5.5	4.0	2.7	4.9	5.9
	5歳児	7.1	6.7	6.2	6.0	6.8
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている者の割合	3歳児	77.9	80.0	80.0以上	77.9	86.9
食塩を摂りすぎないように心がけている者の割合	3歳児	92.9	95.0	95.0以上	92.9	92.8

(%)

事業	担当課	取り組みの結果
母子手帳発行（個別栄養指導）	健康課	母子健康手帳発行時の栄養相談：相談件数 504件（内初産婦実施率96%） ⇒適切な体重管理等の相談に応じ、妊婦の不安軽減と望ましい食習慣の啓発に取り組むことができた。
伴走型相談支援事業（8か月時アンケート）	健康課	アンケート送付数1306件、回収数1195件（回収率91.5%） ⇒アンケートから必要な方に電話や面談等を通じた支援を行うことができた。
母親父親教室（快適マタニティライフ編）	健康課	快適マタニティライフ編 82人⇒妊娠中の望ましい食生活に関する講義や、妊娠中の過ごし方、口腔衛生について啓発できた。

産後ケア事業（ママはぐ）	健康課	ディサービス（直営）実施回数 12回、参加人数 150人⇒管理栄養士が用意した昼食を提供し、産後の身体的回復と心理的な安定を促進できるよう支援できた。
思春期対策事業	健康課	実施校数 15校 参加人数 1429人 （内栄養に関する講座を受講7校 参加人数757人） ⇒中学生を対象に、健康な体づくりのための食生活について講義を行い、適正体重の大切さや成長期に摂って欲しい栄養について啓発できた。
1歳6か月児健診、3歳児健診（リーフレット配付）	健康課	1歳6か月児健診、3歳児健診：リーフレット配布数 2919枚、栄養相談実績 714件⇒幼児期の望ましい食事量や噛むことの大切さを掲載したリーフレットを配布し、啓発できた。
2歳児歯科健診（集団指導）	健康課	実施回数 24回、受診人数 721人、 ⇒コロナで中止していた集団指導を再開し、歯磨きの大切さと朝ごはんの大切さを啓発することができた。
離乳食教室（5、6か月、7、8か月、9～1、6Y）	健康課	5.6か月児：12回開催、297人参加 7.8か月児：8回開催、135人参加 9か月～1歳6か月児：6回開催、117人参加
子どもの生活習慣病予防対策事業（巡回教室）	健康課	子どもの生活習慣病予防対策事業巡回教室：実施回数 39件、参加人数 1040人⇒園児には食べ物の消化吸収の仕組みや食べ物の働き等を巡回教室にて、保護者には規則正しい生活習慣と食習慣の大切さ等をリーフレット及び動画配信にて啓発することができた。
親子食育事業（レシピ公開、動画配信）	健康課	ホームページで動画配信：就学前児を想定し朝ごはんクッキングの動画を配信。視聴数 354件。⇒動画というツールを活用し、簡単に作れる朝ごはんクッキングを広く啓発できた。

【学童期、思春期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
学童期 思春期	適正体重の維持を目指そう	①小中学校における健康教育 ②小中学校における食育 ③公民館事業での食育の推進				
指標		現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度
肥満傾向者の割合	小学5年生男子	12.7	9.8	7.0	15.4	14.2
	小学5年生女子	10.4	8.7	7.0	9.6	10.5

(%)

事業	担当課	取り組みの結果
健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる指導	教育指導課	各小中学校において、食育全体計画を作成し、食教育推進担当教員や栄養教諭及び学校栄養職員等が連携して、食に関する指導（食事の重要性、喜び、楽しさ等）を、各教科、総合的な学習の時間、特別活動などにおいて、それぞれの特質に応じて適切に行った。
食事の重要性、喜び、楽しさ等の食に関する指導	教育指導課	各小中学校において、食育全体計画を作成し、食教育推進担当教員や栄養教諭及び学校栄養職員等が連携して、食に関する指導（食事の重要性、喜び、楽しさ等）を、各教科、総合的な学習の時間、特別活動などにおいて、それぞれの特質に応じて適切に行った。
児童・生徒地域参加事業、家庭教育学級、自主事業等	中央公民館	食育に関する公民館事業 ・合計 61 事業 延べ 1,324 人 (内訳) 家庭教育学級 25 事業 延べ 580 人 自主事業 19 事業 延べ 314 人 児童・生徒地域参加事業 12 事業 延べ 358 人 シニア学級 4 事業 延べ 33 人 ブロック事業 1 事業 延べ 39 人

【青年期、壮年期、高齢期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
青年期 壮年期 高齢期	①適正体重の維持を目指そう ②主食・主菜・副菜を組み合わせたバランスのよい食事を食べよう ③食塩を摂りすぎないようにしよう	①生活習慣病予防・健康づくりの食生活に関する健康教育・健康相談 ②適正体重維持のための食生活の普及啓発 ③地域の健康づくりのための活動支援				
指標		現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度
やせの者の割合 (BMI18.5未満)	20～30 歳代 女性	9.9	維持	維持	14.1	14.4
肥満者の割合 (BMI25以上)	40～50 歳代 男性	39.7	36.7	33.7	40.7	39.6
	40～50 歳代 女性	21.2	17.7	14.2	20.8	22.3
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている者の割合 食塩を摂りすぎないように心がけている者の割合	20歳以上	69.4	72.0	75.0	—	—
		68.5	72.0	75.0	—	—
低栄養傾向者の割合 (BMI20未満)	65歳以上	20.5	18.6	16.7	20.8	20.8

(%)

事業	担当課	取り組みの結果
イベントでの食育体験・栄養相談	健康課	健康・食育フェスタで連携協定企業や食生活改善推進団体と連携して、体験型の普及啓発を行った。2回開催。 連携協定企業管理栄養士の協力で、慢性腎臓病予防講座において、講話を実施。低たんぱくごはんの試食提供も行った。42人参加
健康講話（慢性腎臓病講座での試食の提供）	健康課	連携協定企業管理栄養士の協力で、慢性腎臓病予防講座において、講話を実施。低たんぱくごはんの試食提供も行った。42人参加
健康相談（ヘルスアップ相談、高血圧予防相談での栄養相談、女性の健康づくりプロジェクト）	健康課	健康相談において、栄養相談を実施。年24回。外部の会場で2回健康測定相談会を実施し、栄養相談を行った。

自分で作ろう！映えランチ	健康課	若い世代対象の教室を2回開催。延4人参加（高校生）
高血圧予防の食生活に関する講話	健康課	地区公民館で6回開催。延97人参加。調理実習は食生活改善推進団体が担当。
食生活改善推進員養成・育成	健康課	8回実施し、延123人が参加した。食生活改善推進団体育成事業：役員会、定例会等で助言指導を行い、延388人が参加した。
高齢者の食生活改善の健康相談	保険年金課	健康相談は電話で1件あり、管理栄養士が対応し
健康チャレンジ食生活改善事業	保険年金課	平塚市食生活改善推進団体への委託事業「フレイル予防のための料理講座」をなでしこ公民館・大野公民館・旭南公民館で実施。参加者は30名。
高齢者の低栄養ハイリスク者対策	保険年金課	・後期高齢者健康診査結果から低栄養のハイリスク者を抽出し、42名に支援を実施した。 ★平塚市フレイル予防（食・口腔）の普及啓発及び個別相談事業業務委託 ウエルシア薬局株式会社への委託事業「食べること応援ステーション」をウエルシア薬局平塚四之宮店と平塚中原店で9回実施。参加者は72名。
肥満予防・改善教室（すっきりボディでの食事の提供）	健康課	管理栄養士による講話と1食分の食事を提供した。2クール実施し、延13人が参加した。1クール目に連携協定企業の協力で、健康管理アプリの紹介を行った。
母子手帳発行（個別栄養指導）	健康課	母子健康手帳発行時の栄養相談：相談件数 504件（内初産婦実施率96%） ⇒適切な体重管理等の相談に応じ、妊婦の不安軽減と望ましい食習慣の啓発に取り組むことができた。
思春期講座	健康課	実施校数 15校 参加人数 1429人 （内栄養に関する講座を受講 7校 参加人数 757人） ⇒中学生を対象に、健康な体づくりのための食生活について講義を行い、適正体重の大切さや成長期に摂って欲しい栄養について啓発できた。
母親父親教室（快適マタニティライフ編）	健康課	快適マタニティライフ編 82人 ⇒妊娠中の望ましい食生活に関する講義や、妊娠中の過ごし方、口腔衛生について啓発できた。
地域健康づくり支援事業（依頼事業）	健康課	6回実施。依頼元は、公民館2回、市内企業2回、社協1回、その他1回。
健康チャレンジ普及啓発事業	保険年金課	高齢者よろず相談センターの依頼による健康教育を1回実施し、11人が参加した。

取り組み結果から指標につながる成果

- ・主食・主菜・副菜を揃えた食事の大切さを知り、実際に取り組むきっかけづくりができた。
- ・子どもたちが健康に過ごすために必要な知識を習得できるよう指導を行った。
- ・幅広い世代に対して、食に関する事業を展開することができた。
- ・相談事業や各種集団指導により、望ましい食習慣を身につけるきっかけづくりができた。
- ・連携協定締結企業との連携により、体験型の講座や教室を実施し、食生活を振り返るきっかけ作りができた。
- ・「フレイル予防のための料理講座」や「食べること応援ステーション」の実施により、高齢者自身の低栄養予防及びオーラルフレイル予防に関する普及啓発活動ができた。

次年度の計画

- ・各種事業での相談や集団指導等による普及啓発の継続【健康課】
- ・適正体重の維持や望ましい食習慣の啓発の継続。【健康課】
- ・企業やボランティア団体と連携した周知の継続。【健康課】
- ・適切な食生活の確立は、子どもにとって健やかな心身の発育・発達に大きく関係し、適正な体重を保つことは生活習慣病の予防にもつながる。適切な食生活を確認し、適正な体重を維持することが、生涯にわたって健康な生活を送るために必要な資質・能力であるため、今後も小中学校における食育を継続していく。【教育指導課】
- ・引き続き、地域に対して食育の機会を提供していく。【中央公民館】
- ・食べること応援ステーションを継続して開催する【保険年金課】

【妊娠期、乳幼児期、幼児期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
妊娠期 乳幼児期 幼児期	むし歯を予防しよう	①歯科健康診査 ②乳幼児のむし歯予防の知識の普及				
指標		現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度
むし歯のない者の割合	3歳	91.5	増加	増加	93.9	92.6
むし歯が4本以上ある者の割合		2.4	1.2	0.0	1.2	1.9

(%)

事業	担当課	取り組みの結果
歯科健康診査	健康課	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳6か月児健康診査 受診率は95%、う蝕罹患率は0.43% ・2歳児歯科健康診査 受診率は49.2%、う蝕罹患率は1.8%、フッ素塗布実施率は97.4% ・3歳児健康診査 受診率は96.6%、う蝕罹患率は7.4%
歯みがき教室	健康課	<p>むし歯予防教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8か月～1歳0か月児対象：準備期編（6回、110人参加） ・1歳3か月～1歳10か月児対象：イヤイヤ克服編（6回、50人参加） <p>永久歯萌出期歯科保健事業（巡回教室） 市内保育園・幼稚園・認定こども園計28園、園児624名（年中もしくは年長）に対し巡回教室を実施。希望の園には歯垢の染め出し剤を用いた歯みがき実習を実施。</p>
地域健康づくり支援事業	健康課	<p>依頼のあった子育て支援センターや子育て広場等計12件、親子124組に対し、講話や個別相談を実施。</p>

【学童期、思春期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
学童期 思春期	むし歯や歯周病を予防しよう	①歯の健康に関する普及啓発 ②小中学校における歯科検診・歯科健康教育				
指標		現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度
むし歯のない者の割合	12歳	76.9	83.0	90.0	77.5	81.6
歯肉に炎症がない者の割合		27.0	41.0	55.0	81.5	80.6
フッ化物の応用の経験がある者の割合	15歳未満	66.6	77.0	90.0	—	—

事業	担当課	取り組みの結果
歯の衛生に関する図画・ポスター及び歯科保健啓発標語表彰	学務課	歯の衛生に関する図画・ポスター及び歯科保健啓発標語表彰 図画・ポスター応募（小学生） 10人 図画・ポスター応募（中学生） 27人 標語応募（小学生） 25人 標語応募（中学生） 59人
学校歯科巡回指導	学務課	小学校5年生 1,788人出席。講話と歯磨き実習（染め出し無し）
歯科検診	学務課	検査人数（小学生） 11,259人 検査人数（中学生） 5,562人

【青年期、壮年期、高齢期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
青年期 壮年期 高齢期	①むし歯や歯周病を予防しよう ②よく噛んで食べよう ③オーラルフレイルを知ろう	①歯科健康診査 ②歯科健康教育・健康相談 ③歯科疾患予防についての普及啓発 ④オーラルフレイルの普及啓発				
指標		現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度
歯周病を有する者の割合	40歳以上	61.7	57.0	50.0	62.9	62.0
過去1年間に歯科検診を受診した者の割合		53.7	61.0	70.0	-	-
歯間清掃用具を使用している者の割合		67.6	74.0	80.0	-	-
自分の歯を24本以上有する者の割合	60歳	89.7	増加	増加	82.3	80.2
咀嚼く満足度の割合	50歳以上 (50～74歳)	81.8	増加	増加	81.0	81.7
なんでも不自由なくよく噛んで食べることができる高齢者の割合	75歳以上	71.9	増加	増加	76.4	74.6
「オーラルフレイル」を知っている者の割合		27.9	38.5	47.0	-	-

(%)

事業	担当課	取り組みの結果
歯科健康診査	健康課	妊婦歯科健診 ・受診者数 369名 成人歯科健康診査 ・受診者数 645名、受診率 4.7%
歯っぴい歯みがき教室（保護者向け講話）	健康課	むし歯予防教室について、計12回、計180名の保護者向け講話を実施。 ・永久歯萌出期歯科保健事業について、5園、計20名に対して保護者向け講話を実施。
永久歯萌出期歯科保健事業（保護者参観）	健康課	

歯科健康教室	健康課	大人のためのむし歯予防講座（2回実施、計18人参加） オーラルケア講座（1回実施、11人参加） 口臭予防講座（1回実施、13人参加） 歯科医からきく 健康の秘訣！講座（1回実施、19人参加）
地域健康づくり支援事業	健康課	依頼のあった子育て支援センターや子育て広場等計12件、親子124組に対し、講話や個別相談を実施。
生活保護受給者に対する健康管理支援事業	健康課	生活福祉課からの相談依頼2件、生活保護受給者の相談5件実施。
健康相談	健康課	電話相談14件、来所相談2件、生活福祉課からの相談依頼が2件、生活保護受給者の相談5件実施。
高齢者の歯や口腔に関する健康相談	保険年金課	高齢者の歯や口腔に関する健康相談 健康相談は電話2件、訪問1件、来所1件の合計4件。歯科衛生士が対応した。
介護予防・生活支援サービス事業（訪問サービスC）	地域包括ケア推進課	多様なサービスの一つとして、随時利用開始可能な状態になっているが利用者0人
歯科健康教室	健康課	母親父親教室 計6回、44組の妊婦、もしくは夫婦に対し実施。 大人のためのむし歯予防講座（2回実施、計18人参加） オーラルケア講座（1回実施、11人参加） 口臭予防講座（1回実施、13人参加） 歯科医からきく 健康の秘訣！講座（1回実施、19人参加）
フレイル対策推進事業	保険年金課	公民館や自治会館等でカムカム教室を21回実施。参加者数256人。
健康チャレンジ普及啓発事業	保険年金課	・松が丘公民館と勤労会館でオーラルフレイル予防講座を実施し、参加者数63人。 ・高齢者よろず相談センターの依頼による健康教育を3回実施。参加者数31人。
介護予防・生活支援サービス事業（訪問サービスC）	地域包括ケア推進課	多様なサービスの一つとして、随時利用開始可能な状態になっているが利用者0人

取り組み結果から指標につながる成果

- ・ 蝕予防の意識向上につながった
 - ・ 児童生徒の歯の健康に関する意識が高まっている。
 - ・ 歯周病を有する者の割合が減少した
 - ・ オーラルフレイル予防のためのカムカム教室等の実施により、高齢者自身の状態像が見える化し、気づきと介護予防活動への行動変容を促すための普及啓発活動ができた。
 - ・ 多様なサービスの一つとして、随時利用開始可能な状態になっている。
- また、介護予防ケアマネジメント効果検討会議で口腔の項目に該当している利用者のプランに対して提案を行っている。

次年度の計画

- ・ 乳幼児健康診査や教室等で、早期からの蝕予防の情報提供を継続する【健康課】
- ・ 学校歯科巡回指導について、実施対象学年を小学校3年生、小学校5年生、支援級とする。【学務課】
- ・ 健診や教室等において歯周病予防に関する普及啓発を継続して実施する。【健康課】
- ・ かかりつけ歯科医をもつメリットの情報提供を行う。【健康課】
- ・ カムカム教室を継続して開催する【保険年金課】
- ・ 引き続き、随時利用開始可能な体制を整え、高齢者よろず相談センターと連携して対応する。【地域包括ケア推進課】

【乳幼児期・幼児期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
乳児期 幼児期	楽しく身体を動かそう	①幼児健康診査における普及啓発・保健指導 ②子どもの生活習慣病予防のための健康教育				
指標		現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度
休日に2時間以上外遊びをする者の割合	3歳	43.8	44.3	45.0	39.5	42.4

(%)

事業	担当課	取り組みの結果
1歳6か月児健診・3歳児健診（外遊びの重要性についての周知）	健康課	<p>幼児児健診（1歳6か月児健診・3歳児健診）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳6か月児健診：実施回数 33回 ・3歳児健診：実施回数 36回 <p>幼児健診待合に、親子の触れ合い遊び等についての資料を掲出し、外遊び等の体を動かす遊びの大切さについて周知をしました。</p> <p>また、健診結果により、個別相談において体を動かす遊びの大切さについて周知をしました。</p>
子どもの生活習慣病予防対策事業	健康課	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト配布数 1834部 <p>動画版視聴用二次元コードを含めたテキストを市内の幼稚園・保育園の協力を得て5歳児の保護者に配布し、外遊び等の体を動かすことの大切さについての情報提供と普及啓発を行いました。また、子どもの生活習慣病予防対策事業の市ウェブでも、外遊び等の体を動かすことの大切さについての情報提供を行いました。</p>

幼稚園・保育園サッカー巡回教室、親子サッカー教室、幼児交流サッカー大会	スポーツ課	幼稚園・保育園サッカー巡回教室 ・延べ42園、74クラス、1,638人参加 親子サッカー教室 ・3回、47組94人参加 幼児交流サッカー大会 ・4園、104人参加
-------------------------------------	-------	--

【学童期、思春期、青年期、壮年期、高齢期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
学童期 思春期 青年期 壮年期 高齢期	①楽しく身体を動かそう ②定期的に運動しよう ③身近な地域活動に参加しよう	①子どもの生活習慣病予防のための普及啓発 ②小中学校における健康教育 ③児童・生徒の運動習慣をつけるための場所の提供 ④生涯スポーツの推進のための機会の提供 ⑤スポーツを楽しむ環境づくり ⑥スポーツ活動の普及啓発 ⑦スポーツ・レクリエーション活動の場の提供 ⑧地区住民の親睦や健康増進のための機会の提供 ⑨生活習慣病予防のための運動の健康教育・健康相談 ⑩生活習慣病予防のための運動の普及啓発 ⑪地域の健康づくりのための活動支援 ⑫高齢者の社会参加促進のための活動支援 ⑬身体機能の低下を防ぐための知識の習得と実践の場の提供				
指標		現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度
週420分以上の総運動時間の者の割合	小学5年生男子	59.4	増加	増加	56.3	56.7
	小学5年生女子	33.8	増加	増加	33.1	26.4
	中学2年生男子	77.9	増加	増加	77.6	77.4
	中学2年生女子	58	増加	増加	61.2	59.9
1日30分、週2日以上を1年以上継続している者の割合	20～59歳男性	39.4	43.0	44.5	—	—
	20～59歳女性	25.8	30.6	34.6	—	—

介護予防に取り組んでいる高齢者の割合	65歳以上	52.2	54.6	56.6	—	—
--------------------	-------	------	------	------	---	---

(%)

事業	担当課	取り組みの結果
生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培う指導	教育指導課	各小中学校において、心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる指導を適切に行った。また、健康の保持増進と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を養う指導を適切に行った。
手話ダンスにおける健康づくり事業	スポーツ課	手話ダンスにおける健康づくり事業 1校、参加者数 408 人
小学校体育サッカー巡回授業	スポーツ課	小学校体育サッカー巡回授業 延べ 28 校、参加者数 1,904 人
健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる指導	教育指導課	健康の保持増進と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を養う指導を適切に行った。
学校体育施設開放事業	スポーツ課	学校体育施設開放事業 登録団体数 349 件 小学校 28 校、申込延件数 10,548 件、 利用延人数 217,731 人 中学校 15 校、 申込延件数 5,139 件、利用延人数 70,253 人
小学校プール開放事業	スポーツ課	小学校プール開放事業 小学校 26 校、利用者数 8,950 人
少年少女スポーツ大会	スポーツ課	少年少女スポーツ大会 少年少女野球、水泳、剣道、マラソン 大会、参加者数 903 人
平塚市民・大学交流スポーツフェスタの開催	スポーツ課	平塚市民・大学交流スポーツフェスタの開催 中学生陸上競技、バスケットボール、 バレーボール教室、参加者数 324 人
スポーツ施設活用事業	スポーツ課	スポーツ施設活用事業 スポーツ施設利用者数 241,050 人

スポーツ用具の貸し出し	スポーツ課	スポーツ用具の貸し出し スポーツ用具貸し出し件数 180 件
ポータルサイト「平塚スポーツナビ」の運営による スポーツ情報の提供（イベント・団体・施設情報等）	スポーツ課	ポータルサイト「ひらつかスポーツナビ」 の運営によるスポーツ情報の提供 訪問者（アクセス）数 123,343 人、ペ ージビュー数 333,867 ページ、 登録団体数 143 団体
各種スポーツ大会開催事業	スポーツ課	各種スポーツ大会開催事業 ボッチャ大会、市内駅伝競走大会、参 加者数 241 人
ひらつかパラスポーツフェスタの開催	スポーツ課	ひらつかパラスポーツフェスタの開催 参加者 416 人
各種スポーツ施設管理運営事業	総合公園課	市民が安心・安全にスポーツやレクリエ ーションを楽しめる施設の整備・管理・ 運営を行いました
ひらつか市民スポーツフェスティバル開催事業	スポーツ課	ひらつか市民スポーツフェスティバル開 催事業 参加者数 14,471 人
市民総合体育大会開催事業	スポーツ課	市民総合体育大会開催事業 参加者数 3,259 人
市民体育レクリエーション地区大会	中央公民館	市民体育レクリエーション地区大会 ・22 地区公民館（23 会場）で大会を実施 （3 地区公民館（3 会場）は、雨天により 中止）。 ・参加者は延べ 13,700 人。 ・各地区毎に自治会や体育振興会を中心 とした実行委員会を立ち上げ、各種地域 団体と協力して競技内容の検討や準備、 当日の運営を行った。
肥満予防・改善教室（すっきりボディを手に入れた あなたへ）	健康課	壮年期対象に 1クール 5 回を 2クール開 催し、延 60 人参加。 週 2 回以上の運動実施者が参加前 23%か ら 54%に増加し、運動習慣のなかった者 が運動を実施するようになる変化もあ り。

運動体験教室（運動習慣のきっかけづくり教室）	健康課	壮年期を対象に対面講座3回、オンライン講座3回を開催し、延58人参加。 運動機会の少ない参加者が多かったが、意識に変化がみられ、自宅での実践につながる機会を提供。
イベントでの体験機会の提供（健康・食育フェスタ）	健康課	イベントで4講座、延88人参加。2講座は親子対象とし、運動習慣が少ない子育て世代に運動機会を提供した。
健康相談（ヘルスアップ相談、高血圧予防相談、女性の健康づくりプロジェクト）	健康課	定期来所相談を28回、子育てサロン等に出向き若い世代に向けた測定相談を2回開催し、延155人。年齢や強度に応じた運動の紹介や生活習慣改善の見直しを実施。
健康推進員養成・育成講座	健康課	養成講座を8回実施し、延92人参加。 育成講座を3回実施し、延51人が参加。 健康づくりに関するボランティア活動を行うための知識の普及を行った。
健康づくり推進員事業（健康推進員主催の講座・健康ウォーキング）	健康課	平塚市健康推進員連絡協議会に市民の健康づくり（運動・休養）を委託し実施した。健康ウォーキング（体験ウォーキングを含む）10回・延322人、くすの木体操35回・延659人、地区ブロック活動（健康教室）4回・延120人、体力チェック等の実施11回・延682人
イベントでの情報発信（健康・食育フェスタ）	健康課	イベントで4講座、延88人参加。2講座は親子対象とし、運動習慣が少ない子育て世代に運動機会を提供した。
企業と連携したアプリ等を活用した運動の普及啓発	健康課	企業と連携したアプリを活用した運動の普及啓発 連携協定企業の運動のアプリを活用し、「Vitality ひらつかウォーク」を開催。スマートフォン等で歩数を記録し、コンビニ等の飲料がもらえるインセンティブあり。 対象者：18歳以上の在住在勤者、参加者数：228人（30～50代が約7割） 期間：10月～12月の8週間 アンケート結果：運動を意識するようになった92%、歩く時間は増えた76%

企業や地域団体の依頼による運動に関する健康教育 (企業向け出張健康ミニセミナーを含む)	健康課	企業や地域団体の依頼による運動に関する健康教育 企業数：2 回数：3回 参加者数：80人 内容：職場のスキマ時間に、いす等に座ってできるストレッチの実践を行った。
地域リハビリテーション活動支援事業	保険年金課	・地域リハビリテーション活動支援事業の通所型サービスC参加前後の機能評価及び助言を12回実施。参加者数延べ12人。 ・福祉村・高齢者よろず相談センター等の依頼による健康教育を4回実施。参加者数44人。 ・介護予防ケアプラン検証会議へ13回出席した。
健康チャレンジ地域活動支援事業	保険年金課	・健康課から借用した骨密度測定器1台を高齢者よろず相談センターに貸し出しを行っている。令和6年度は貸し出しを13回行い、参加者は445人だった。令和6年度の参加者数の目標値の210人を大幅に超えた参加者数となった。 ・福祉村等の依頼による健康教育を7回実施。参加者数136人。
フレイル対策推進事業	保険年金課	・公民館や自治会館等でフレイルチェック測定会を39回実施。参加者数、計581人。参加者の年間目標の505人以上を達成。
ひらつか元気応援ポイント事業	地域包括ケア推進課	説明会を月1回開催し、年間12回の開催となった。説明会については、広報、ホームページ等で周知した。 会員数：165名 ポイント換金実績：254,300円(89件) 元気応援セット交換実績：10,800円(2セット) スターライトマネー交換実績：5,500円(1件)
フレイル対策推進事業	保険年金課	・公民館や自治会館等でフレイルチェック測定会を39回実施。参加者数、計5

		81人。参加者の年間目標の505人以上を達成。
地域リハビリテーション活動支援事業	保険年金課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域リハビリテーション活動支援事業の通所型サービスC参加前後の機能評価及び助言を12回実施。参加者数延べ12人。 ・福祉村・高齢者よろず相談センター等の依頼による健康教育を4回実施。参加者数44人。 ・介護予防ケアプラン検証会議へ13回出席した。
通所型サービスC事業	地域包括ケア推進課	<p>開催回数：36回</p> <p>参加者の参加者延べ人数：283人</p> <p>参加者の多くが運動口腔機能の向上が認められ、通いの場などのインフォーマルサービスに繋がった。</p>

取り組み結果から指標につながる成果

- ・乳幼児期の楽しく体を動かす習慣のきっかけづくりを継続することができた。
- ・サッカーを通じた遊びの中で、園児自らが体を動かす楽しさや心地よさを実感してもらった。親子の触れ合いの場を提供でき、スポーツへの参加意欲の向上が見られた。仲間との思いやりや協調性、他園児との交流が図られた。
- ・子どもたちが健康に過ごすために必要な知識を習得できるよう指導を行った。
- ・地域住民に対してスポーツ、レクリエーションを通じた地域交流の機会を提供することができた。雨天中止による3会場についても、企画・準備の過程で地域内の交流を生むことができた。
- ・多くの市民にスポーツに触れ、楽しむ機会を提供でき、地区住民の親睦や健康増進に寄与した。
- ・各施設の老朽化した設備等について改修や修繕を実施し、安定した施設運営を行うことができました。
- ・青年期～壮年期に対し、生活習慣病予防のための運動指導や運動機会の提供ができた。
- ・健康教育や地域リハビリテーション活動支援事業の実施により、介護予防活動への行動変容を促すための普及啓発活動ができた。
- ・高齢者が介護予防に取り組む場の提供ができた。
- ・参加者による主観的健康観の評価は92%が改善（または維持）している。

次年度の計画

- ・幼児健診や子どもの生活習慣病予防対策事業等における情報提供や相談等による普及啓発の継続【健康課】
- ・サッカーによる普及啓発活動を行う。【スポーツ課】
- ・生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるため、今後も小中学校における健康教育を継続していく。

【教育指導課】

・ 地域団体との連携を図り、継続して実施していく。【中央公民館】

・ 陸上競技、バスケットボール、バレーボールの3つの教室に、野球教室を追加する。【スポーツ課】

・ 継続して市民が安心・安全にスポーツやレクリエーションができるよう必要な施設の整備・

改修を行い、管理運営を行っていきます。【総合公園課】

・ 連携協定企業と新たなプログラムと周知の検討、条件付き参加費用減額の実施、アーカイブ配信や保育の実施、医療機関に出向き周知の拡大、休日事業の実施【健康課】

・ 地域リハビリテーション支援活動を継続して実施する。新たな形式でのサービス提供を含めた仕様書に基づき入札を実施する。【地域包括ケア推進課】

【乳児期、幼児期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
乳児期 幼児期	早寝早起きをしよう	①幼児健康診査における普及啓発・保健指導 ②子どもの生活習慣病予防のための健康教育				
指標		現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度
22時より前に就寝する者の割合	5歳児	87.1	87.8	88.6	89.5	—

(%)

事業	担当課	取り組みの結果
1歳6か月児健診・3歳児健診(生活リズムを整える必要性の周知)	健康課	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳6か月児健診：実施回数 33回 ・3歳児健診：実施回数 36回 幼児健診待合に、早寝早起きなどの規則正しい生活リズムの大切さについての資料を掲出し周知しました。 また、状況により早寝早起きなどの規則正しい生活リズムの大切さについて個別相談で周知をしました。
子どもの生活習慣病予防対策事業(生活リズムを整える必要性の周知)	健康課	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト配布数 1834部 動画版視聴用二次元コードを含めたテキストを市内の幼稚園・保育園の協力を得て5歳児の保護者に配布し、早寝早起きなどの規則正しい生活リズムの大切さについて情報提供と普及啓発を行いました。また、子どもの生活習慣病予防対策事業の市ウェブでも、早寝早起きなどの規則正しい生活リズムの大切さについて情報提供を行いました。

【学童期、思春期、青年期、壮年期、高齢期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
学童期 思春期 青年期 壮年期 高齢期	①早寝早起きをしよう ②睡眠で十分な休養をとろう ③ストレスに気づき適切に対処しよう	①小中学校における健康教育 ②悩みやストレスへの対処方法の教育 ③悩みを相談できる窓口の情報提供 ④休養に関する健康教育 ⑤睡眠やこころの健康に関する健康相談 ⑥地域の健康づくりのための活動支援 ⑦介護者のストレス軽減や介護技術の向上のための機会の提供 ⑧定年退職後の世代を対象とした学習機会の提供 ⑨こころの健康相談【平塚保健福祉事務所】				
指標		現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度
睡眠時間が6時間未満の者の割合	小学5年生男子	5.0	減少	減少	4.6	3.5
	小学5年生女子	2.8	減少	減少	3.6	3.1
睡眠で休養がとれている者の割合		78.4	79.2	80.0	—	—
ストレスが多大にある者の割合		17.3	17.1	16.8	—	—

(%)

事業	担当課	取り組みの結果
生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培う指導	教育指導課	小学校では病気の予防として、病気は体の抵抗力や生活行動等がかかわり合って起こること、病気の予防には体の抵抗力を高めることが必要であることを指導した。中学校においては健康な生活と疾病の予防として、健康の保持増進には、年齢生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があることを指導した。
生き方・命の大切さを学ぶ機会の提供	福祉総務課	中学生を対象とした講演会を実施することにより、中学生が自尊心を大切にし、困難等に直面した時の対処法を身に付けられる機会を提供した。 ・山城中学校 11月13日(水)「人生の意味を

		<p>見失ってからが勝負～大谷翔平に学ぶセカンドチャンスのつかみ方～」講師：編集・ライター／全学年生徒 398 人受講</p> <p>・旭陵中学校 2月20日(木)「思春期のストレスを乗り越えるために」講師：臨床心理士、公認心理師／全校生徒 254 人受講</p> <p>・土沢中学校 2月27日(木)「心と命を守る講演 ストレスや悩みとの上手な付き合い方」講師：精神保健福祉士／全校生徒 137 人受講</p> <p>・横内中学校 3月6日(木)「思春期のストレスを乗り越えるために」講師：臨床心理士、公認心理師／全校生徒 131 人受講</p> <p>・太洋中学校 3月6日(木)「もっと自分を好きになるために」講師：ノンフィクションライター／全校生徒 226 人受講</p>
生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培う指導	教育指導課	<p>小学校では病気の予防として、病気は体の抵抗力や生活行動等がかかわり合っ起こること、病気の予防には体の抵抗力を高めることが必要であることを指導した。中学校においては健康な生活と疾病の予防として、健康の保持増進には、年齢生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があることを指導した。</p>
いのちとくらしの総合相談会の開催	福祉総務課	<p>複数分野の専門家・相談員が連携して支援を行う相談会を開催することで、多岐にわたる相談に対応し、次の相談先へ繋ぐ機会を作った。(相談枠 18 枠 = 6 枠 × 3 回)</p> <p>・9月25日(水)夜間開催 相談者 5 人／予約者 5 名人</p> <p>・12月26日(木)日中開催(中止) 相談者 0 人／予約者 0 人</p> <p>・3月2日(日)日中開催 相談者 3 人／予約者 4 人</p>

自殺対策に関する周知啓発の強化	福祉総務課	<p>次の方法で周知啓発することで、困りごとを抱えた市民が相談窓口等につながるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口案内リーフレット「気づいてくださいこころのサイン」を関係機関等に配付、研修・相談会等で活用 ・9月自殺予防週間、3月自殺対策強化月間：県合同庁舎でのパネル展の実施、ごみ収集車のマグネットで掲示、図書館での「こころと命のサポートのための本」展示コーナー設置等 ・ラジオ（FM湘南ナパサ）での周知
健康講話	健康課	生活習慣病に関するテーマ（うち1回睡眠をテーマ）で4回開催し、延べ162名参加。専門医から睡眠と生活習慣の関連や生活習慣病予防の視点で全講話にて話す機会を設け、参加者に睡眠について考える機会を提供できた。
生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培う指導	教育指導課	小学校では病気の予防として、病気は体の抵抗力や生活行動等がかかり合っ起こること、病気の予防には体の抵抗力を高めることが必要であることを指導した。中学校においては健康な生活と疾病の予防として、健康の保持増進には、年齢生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があることを指導した。
健康相談（ヘルスアップ相談等の来所、所内指導）	健康課	健康相談（ヘルスアップ相談、高血圧予防相談）定期来所相談にて、延べ4人に休養指導を実施した
企業や地域団体の依頼による健康教育	健康課	<p>企業や地域団体の依頼による睡眠・休養に関する健康教育</p> <p>企業数：1 回数：1回 参加者数：1人</p> <p>内容：交代勤務で睡眠時間が不規則な生活に対し、睡眠での休養のとり方について講話</p>
家族介護リフレッシュ事業	高齢福祉課	年間99回（4月～3月）開催予定中の全99回の実施が出来た。（令和5年度は年間99回のうち台風のため1回のみ中止となった。）また年間の参加者総数は令和5年度が475名であったのが、令和6年度は576名と大幅に増加となった。インターネット等での介護情報入手は容易となっているが、団塊世代の高齢化により今後暫くは参加・実践出来るこの様な機会はおおい

		に必要なものとなり得る。
家族介護教室	高齢福祉課	年間6回(10月～3月)開催予定中の全6回の実施が出来たが、令和4年度の36名とほぼ同数の39名となり、目標の令和5年度の55名の10%増加(61名)には届かなかった。1回あたりの平均参加者数も9.2人から6.5人に減少。しかしながら、全参加者からアンケートを取り、平均94.6点(100点満点中)の高評価をいただいた。教室の内容については「参加者の意見を聞いて対応してもらえた。」「ゆっくりと平易な口調での説明が良かった。」「日々の体操を教えてもらい助かります。」「健康に役立つ情報を得られた。」「脳も体も活性化した。」「分かりやすくすぐにも使えそう。」などと概ね良好な感想をいただくことが出来た。
シニア学級	中央公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・全25地区公民館で実施。 ・対象者は主に60歳以上の住民。 ・130講座、参加者は延べ2,562人。 ・内容は地区の老人会等と協議し、歴史講座や消費生活に関する講習、ニュースポーツの体験など、各地区毎のニーズに合わせて実施。

取り組み結果から指標につながる成果

- ・乳幼児期の早寝早起きなど規則正しい生活リズムを身につけるためのきっかけづくりを継続することができた。
- ・子どもたちが健康に過ごすために必要な知識を習得できるよう指導を行った。
- ・講演会の受講後、84%の生徒が「前向きな気持ちになれた」と回答があった。③相談者全員からいのちと暮らしの総合相談会に参加しての前向きな感想が得られた。/9月自殺予防週間、3月自殺対策強化月間を中心に相談窓口の周知など啓発活動をした。これらのことから、ストレスが多くなる前の対処法を伝えることに寄与することができた。
- ・家族介護教室の参加者からの高評価はいただいているが、参加者数が伸び悩み。各回のプログラム内容の吟味の必要性があると感じられる。
- ・家族介護リフレッシュ事業は参加者数増加が続いており、団塊世代の焦り・不安が表面化していると感じられる。
- ・幅広いジャンルの講座を実施することにより、余暇の活用方法を提案することができた。
- ・講話や相談の実施により、睡眠と休養について普及啓発できた。

次年度の計画

- ・ 幼児健診や子どもの生活習慣病予防対策事業における情報提供や相談等による普及啓発の継続【健康課】
- ・ 生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培うため、今後も小中学校において健康教育を継続していく。【教育指導課】
- ・ 第2期地域福祉リーディングプラン（第2期自殺対策計画）に沿って、取組をしていく【福祉総務課】
- ・ 事業者とともに利用者の多くが欲するプログラムを検討・実施し、広報・よろず相談センター等を通じた周知継続。【高齢福祉課】
- ・ 引き続き各地区内でニーズを把握し、実施内容を検討する。【中央公民館】
- ・ 連携協定企業と休養について普及啓発を実施する。【健康課】

【妊娠期、乳児期、幼児期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
妊娠期 乳児期 幼児期	妊娠中の飲酒はやめよう	①妊娠中の飲酒による影響に関する健康相談 ②妊娠中の飲酒による影響に関する健康教育				
指標	現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度	
妊娠中に飲酒している者の割合	0.9	0.5	0.0	0.2	0.3	

(%)

事業	担当課	取り組みの結果
母子保健事業(母子健康手帳の交付・電話相談など)	健康課	母子健康手帳交付(1317件)、乳児全戸訪問、電話相談時などに飲酒の状況を確認し、飲酒による影響などを伝えた。
母子保健事業(母親父親教室・父子手帳や新婚パンフレットの配布など)	健康課	母親父親教室(快適マニティライ7編)、父子手帳、新婚のパンフレット、市のホームページ、公式LINEなどを活用し、飲酒による健康への影響の普及啓発を実施。
市ホームページ、市公式LINE送信、イベントでの情報発信(健康・食育フェスタ、東海大学グローバルフェスタ) など	健康課	健康・食育フェスタ、東海大グローバルフェスタでパネル展示を実施し、飲酒による健康への影響を周知した。

【学童期、思春期、青年期、壮年期、高齢期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
学童期 ～ 高齢期	適切な飲酒量を守ろう	①地域における飲酒の教育指導 ②生活習慣病予防と飲酒に関する健康教育、健康相談 ③「生活習慣病のリスクを高める飲酒量」についての普及啓発				
指標	現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度	
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合	男性	11.2	10.7	10.3	—	—
	女性	6.6	6.2	5.8	—	—

(%)

事業	担当課	取り組みの結果
愛護指導における20歳未満飲酒者への声かけ及び指導	青少年課	愛護指導における20歳未満飲酒者への声掛け及び指導を実施した。(飲酒に対する声掛け9件)
健康相談(ヘルスアップ相談、高血圧予防相談)	健康課	定期来所相談にて、延べ9人に飲酒に関して指導を実施した。
イベントでの情報発信(健康・食育フェスタ、東海大学グローバルフェスタ)	健康課	健康・食育フェスタ、東海大グローバルフェスタでパネル展示を実施。適正飲酒やアルコールの健康への影響等について周知した
生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培う指導	教育指導課	小学校では病気の予防について、飲酒は健康を損なう原因となることを身に付けることができるよう指導した。中学校では健康な生活と疾病の予防について、飲酒は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があることを身に付けることができるよう指導した。
イベントでの情報発信(健康・食育フェスタ、東海大学グローバルフェスタ)	健康課	健康・食育フェスタ、東海大グローバルフェスタでパネル展示を実施。適正飲酒やアルコールの健康への影響等について周知した
市ホームページでの情報発信	健康課	アルコールの健康への影響等について情報提供した。

取り組み結果から指標につながる成果

- ・新婚期から妊娠・出産を含めた幅広いライフステージに情報提供ができています。
- ・青少年補導員や関係団体が巡回し声掛けをすることにより、20歳未満の飲酒を防止することができた
- ・子どもたちが心身の健康を保持・増進するための資質・能力を育成することを目指して指導した。

次年度の計画

- ・各ライフステージにおける事業での普及啓発を継続【健康課】
- ・関係団体と連携した巡回を継続する。【青少年課】
- ・飲酒は健康を損なう原因となることを身に付けることは、心身の健康を保持・増進するための資質・能力の育成に必要なため、今後も小中学校において指導していく。【教育指導課】

【妊娠期、乳児期、幼児期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
妊娠期 乳児期 幼児期	①受動喫煙をしない・させない行動をとろう ②妊娠中の喫煙はやめよう	①妊娠中の喫煙の健康への影響に関する健康相談 ②妊娠中の喫煙による影響に関する健康教育				
指標	現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度	
受動喫煙をしない・させない者の割合	57.9	63.3	67.9	—	—	
妊娠中に喫煙している者の割合	3.0	1.5	0.0	2.1	1.2	

(%)

母子保健事業(母子健康手帳の交付・電話相談など)	健康課	健康相談：母子健康手帳交付(1317件)、乳児全戸訪問、電話相談等に喫煙状況を確認し、喫煙や受動喫煙による影響など伝えた。
母子保健事業(母親父親教室・父子手帳や新婚パンフレットの配布など)	健康課	母親父親教室(快適マニエ編)、父子手帳、新婚のパンフレット、を活用し、喫煙や受動喫煙による健康への影響の普及啓発を実施。
市ホームページ、市公式LINE送信、イベントでの情報発信(健康・食育フェスタ、東海大学グローバルフェスタ) など	健康課	市のホームページ、公式LINEへの掲載。健康・食育フェスタ、東海大グローバルフェスタでパネル展示を実施し、受動喫煙を含めた健康への影響等を周知した。

【学童期、思春期、青年期、壮年期、高齢期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
学童期 ～ 高齢期	①受動喫煙をしない・させない行動をとろう ②たばこを止めたい喫煙者は禁煙にチャレンジしよう ③COPD(慢性閉塞性肺疾患)について知ろう	①地域における喫煙の教育指導 ②喫煙による健康への影響(がん、COPD等)に関する健康教育 ③生活習慣病予防と喫煙に関する健康相談 ④禁煙したい人が受けられる支援に関する普及啓発 ⑤禁煙サポート事業【平塚保健福祉事務所】				
指標	現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度	
受動喫煙をしない・させない者の割合	57.9	63.3	67.9	—	—	
喫煙している者の割合	11.6	10.3	9.2	—	—	

COPD（慢性閉塞性肺疾患）を知っている者の割合	44.1	49.5	54.0	—	—
--------------------------	------	------	------	---	---

(%)

事業	担当課	取り組みの結果
愛護指導における20歳未満喫煙者への声かけ及び指導	青少年課	愛護指導における20歳未満喫煙者への声掛け及び指導を実施した。（喫煙に対する声掛け32件）
健康講話（睡眠時無呼吸症候群、慢性腎臓病予防、睡眠、循環器予防）	健康課	生活習慣病に関するテーマで4回開催し、延べ162名参加。専門医から生活習慣病予防の視点で喫煙について話す機会を設け、普及啓発を実施した。
FM湘南ナパサを活用した情報発信	健康課	FM湘南ナパサを活用した情報発信 令和6年11月19日にFMナパサにてCOPDについて、喫煙による影響について周知した。
市ホームページ、市公式LINEを活用した情報発信	健康課	市ホームページや市公式LINEを活用した情報発信 市公式LINEで世界禁煙デーや世界COPDデーに合わせて発信し、喫煙による健康への影響・禁煙実施医療機関について周知した
イベント（健康・食育フェスタ、東海大学グローバルフェスタ）での情報発信	健康課	健康・食育フェスタ、東海大グローバルフェスタでパネル展示を実施し、受動喫煙を含めた健康への影響等を周知した。
生涯を通じて健康・安全で活力のある生活を送るための基礎を培う指導	教育指導課	小学校では病気の予防について、喫煙は健康を損なう原因となることを身に付けることができるよう指導した。中学校では健康な生活と疾病の予防について、喫煙は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があることを身に付けることができるよう指導した。
健康相談（ヘルスアップ相談、高血圧予防相談）	健康課	定期来所相談にて、延べ5人に喫煙に関して指導を実施した。

イベント（健康・食育フェスタ、東海大学グローバルフェスタ）での情報発信	健康課	健康・食育フェスタ、東海大グローバルフェスタでパネル展示を実施し、受動喫煙を含めた健康への影響等を周知した。
市ホームページ、市公式 LINE を活用した情報発信	健康課	市ホームページや市公式 LINE を活用した情報発信 市公式LINEで世界禁煙デーや世界COPDデーに合わせて発信し、喫煙による健康への影響・禁煙実施医療機関について周知した

取り組み結果から指標につながる成果

- ・新婚期から妊娠・出産をはじめ幅広いライフステージに情報提供ができています。
- ・青少年補導員や関係団体が巡回し声掛けをすることにより、20歳未満の喫煙を防止することができた。
- ・子どもたちが心身の健康を保持・増進するための資質・能力を育成することを目指して指導した。

次年度の計画

- ・各ライフステージにおける事業での普及啓発を継続【健康課】
- ・関係団体と連携した巡回を継続する。【青少年課】
- ・喫煙は健康を損なう原因となることを身に付けることは、心身の健康を保持・増進するための資質・能力の育成に必要なため、今後も小中学校において指導していく。【教育指導課】

【学童期、思春期、青年期、壮年期、高齢期】

ライフステージ	健康行動	市の取組				
青年期 ～ 高齢期	定期的にがん検診を受けよう	①がん検診 ②がんの予防対策の普及啓発 ③肝炎ウイルス検診・子宮頸がんワクチンの普及啓発（感染予防）				
指標		現状値	中間値	最終値	令和5年度	令和6年度
がん検診の受診率	胃がん検診	2.1	2.7	3.2	2.1	2.0
	肺がん検診	14.1	17.1	19.6	14.1	14.0
	大腸がん検診	7.7	10.7	13.2	8.2	8.4
	子宮がん検診	7.9	8.5	9.0	8.1	8.4
	乳がん検診	4.0	4.6	5.1	4.0	3.8
	前立腺がん検診	1.4	1.5	1.6	1.1	1.2

(%)

事業	担当課	取り組みの結果
がん検診普及啓発事業	健康課	・各医療機関での個別検診及び集団がん検診、ららぽーとでの乳がん検診を実施した。
健康診査事業	健康課	・令和7年度へ向けて、集団がん検診WEB予約の準備とがん検診のお知らせの見直しを行った。 ・がん検診精密検査受診状況の把握へ向けてがん検診精密検査未受診者に郵送やSMSによる受診勧奨を実施した。
イベント（健康・食育フェスタ）やFMナパサ湘南での情報発信	健康課	・健康・食育フェスタにおいて明治安田生命と共同でがん普及啓発を行った。

運動体験教室(女性限定の運動習慣のきっかけづくり教室)	健康課	・運動体験教室(女性の健康づくり編) 1回開催し、13人が参加。乳がんは女性に多い病気であり、ブレストウェルネスの重要性を伝え、参加者の理解を深めることができた。
肝炎ウイルス検診普及啓発事業	健康課	・5歳刻みの年齢の対象者に受診券を送付した。
子宮頸がんワクチンの普及啓発事業	健康課	・中学1年生と高校1年生に勧奨チラシを送った。

取り組み結果から指標につながる成果

- ・がん検診精密検査の受診状況の把握に努め、がん検診の精度管理の向上につながった。
- ・がん予防に関する知識の普及啓発を効果的に行えた。
- ・すべてのがん検診において問題なく実施し、7年度に向けた準備も行えた。

次年度の計画

- ・がん検診精密検査の受診状況未把握者について、医療機関への照会や対象者への通知を行う。【健康課】
- ・集団がん検診のWEB予約を全日程で導入。【健康課】

【青年期、壮年期、高齢期】

ライフステージ	健康行動	市の主な取組					
青年期 壮年期 高齢期	①検査結果に応じた生活習慣の改善・早期受診・治療を継続しよう ②1年に1回健康診査を受けよう	①生活習慣病予防（高血圧等）のための健康教育 ②生活習慣病予防（高血圧等）のための健康相談 ③生活習慣病予防・重症化予防の普及啓発 ④特定健康診査 ⑤特定保健指導 ⑥後期高齢者健康診査 ⑦生活習慣病重症化予防のための保健指導					
指標		現状値	中間値	最終値	R5	R6	
脳血管疾患患者の割合	40～64歳	3.5	3.4	減少	3.6	3.4	
	65～74歳	9.2	9.1	減少	9.2	9.4	
	後期高齢者	18.0	18.0	維持	17.6	17.8	
虚血性心疾患患者の割合	40～64歳	3.1	3.0	減少	3.1	3.4	
	65～74歳	9.5	9.4	減少	9.3	9.5	
	後期高齢者	17.2	17.2	維持	17.4	17.9	
腎不全患者の割合	40～64歳	3.6	3.5	減少	3.9	4.1	
	65～74歳	6.9	6.8	維持	8.2	9.2	
	後期高齢者	10.6	10.6	維持	12.5	13.4	
新規人工透析導入者数	40～64歳	7.0	減少	減少	10人	8	
	65～74歳	19.0	減少	減少	8人	9	
特定健康診査受診者のうちメタボリックシンドローム該当者・予備群の割合	男性	該当者	33.4	30.6	減少	32.8	34.8
		予備群	18.2	16.4	減少	18.2	17.7
	女性	該当者	9.8	8.6	減少	10.2	10.3
		予備群	5.7	5.4	減少	6.0	6.7
特定健康診査受診者のうち高血圧者の割合	I度高血圧以上	28.9	27.3	減少	27.5	26.0	
	II度高血圧以上	7.0	6.0	減少	6.5	6.2	
特定健康診査受診者のうち脂質異常者（LDLコレステロール140以上）の割合		23.0	21.5	減少	24.4	25.9	
特定健康診査受診者のうち血糖異常者の割合	HbA1c6.5%以上	7.7	7.5	減少	8.3	8.1	
	HbA1c8.0%以上	0.83	0.70	減少	0.9	0.85	
特定健康診査未受診者かつ過去に糖尿病治療歴があ		1.28	1.04	減少	0.8	未確定	

り、現在治療中断している者の割合						
指標		現状値	中間値	最終値	R5	R6
特定健康診査の受診率	40～74 歳	36.4	42.4	増加	37.5	36.6 (6月速報値)
	40～49 歳	16.2	17.8	増加	18.0	18.5 (7月時点)
特定保健指導の実施率	40～74 歳	17.5	21.7	増加	20.2	19.8 (7月時点)
後期高齢者健康診査の受診率		34.3	増加	増加	36.3	37.0
年に1回健康診断を受けている者の割合		74.9	77.5	80.0	—	—

(%)

事業	担当課	取り組みの結果
健康講話（睡眠時無呼吸症候群、慢性腎臓病予防、睡眠、循環器予防）	健康課	生活習慣病に関するテーマで4回開催し、延べ162名参加。専門医から生活習慣病の予防を含めた内容で講話を実施した。また、各講座の中で保健師から高血圧の現状について伝え、血圧測定、血圧記録手帳及びチラシ配架を通し普及啓発した。
肥満予防・改善教室（すっきりボディを手に入れたあなたへ）	健康課	壮年期対象に1クール5回を2クール開催し、延60人参加。運動や食事に関する知識提供及び実践を通し、参加者の行動・意識変容と体重減少、血圧値改善（体重減少：参加者の69%、血圧改善：高血圧対象者の43%）につながった。
運動体験教室（運動習慣のきっかけづくり教室）	健康課	壮年期を対象に対面講座3回、オンライン講座3回を開催し、延58人参加。 身体活動を増やすポイントを伝え、運動習慣獲得のきっかけを提供した。対面講座では、正しい血圧測定方法の体験、健診受診の勧奨も実施した。
イベント（健康・食育フェスタ）での情報発信、運動体験機会の提供	健康課	健康・食育フェスタを2回開催し、延700人が参加。健康測定や運動講座への参加を通じて、健康意識に変化がみられた（アンケート回答者の94%）
健康推進員主催事業での高血圧予防の健康教育	健康課	くすの木体操教室で、保健師が教室参加者に対して、高血圧予防と正しい血圧の測り方について講義を実施した。
健康推進員養成・育成講座	健康課	養成講座を8回実施し、延92人参加。育成講座を3回実施し、延52人が参加。健康づくりに関するボランティア活動を行うための知識の普及を行った。

食生活改善推進員養成講座・育成事業	健康課	養成講座 8回開催、延べ123人参加、16人入会 育成事業 26回開催、延べ388人参加 地域活動を行うための相談、助言を行った。
高血圧予防の食生活に関する講話	健康課	減塩に関する講話:食生活改善推進団体に委託している教室で、講話を実施した。6地区の公民館で97人が参加した。
企業向け出張健康ミニセミナー	健康課	企業からの依頼や連携協定企業(生命保険会社)の仲介等により、5者の企業に、延べ10回、延べ221人に、生活習慣病や生活習慣の改善等について保健師や栄養士が講話を実施。
地域職域連携事業(企業を対象とした内臓脂肪測定会)	健康課	連携協定企業の専門職(栄養士)や健康測定機器を活用し、市の健康講話や健康教室、イベント等で、栄養、運動、喫煙、がん等の生活習慣の改善等について普及啓発した。 ・1者の企業祭に参加し、青年期~高齢期の幅広い世代に食事や運動等の生活習慣の改善について普及啓発した。
健診結果説明会	保険年金課	特定健診を受診した結果、保健指導レベル「なし」となった方及び、後期高齢者健康診査を受診された方を対象に健診結果の見方と生活改善方法をお伝えする教室を開催。令和6年度初めてYoutubeでの動画公開を開始した。
健康相談(ヘルスアップ相談、高血圧予防相談、女性の健康づくりプロジェクト、所内指導)	健康課	定期来所相談を28回、子育てサロン等に出向き若い世代に向けた測定相談を2回開催し、延155人。個別相談や各種測定等を通し、自身の健康について考える機会の提供及び予防に関する具体的な生活指導を実施した。
チラシ(血圧クイズ・家庭血圧測定)、市ホームページでの情報発信	健康課	連携協定企業、医師会と連携し作成した血圧クイズを医療機関、公民館に配架したり、健康推進員活動時や公式LINE等で周知した。また、市ホームページで、減塩・適塩、家庭血圧測定、適性体重の維持等について情報発信した。
FM湘南ナパサ、市公式LINEを活用した情報発信	健康課	FM湘南ナパサで、高血圧及び適正体重や健康的な食生活に関する情報提供を実施した。各種健康教育や健康相談について、市民が把握できるよう情報発信を適宜行った。
健康づくり推進事業(健康推進員主催講座等)を活用した高血圧の普及啓発	健康課	各事業で参加者宛に血圧クイズを配布した。公民館まつり(1公民館)の測定内容に血圧測定を追加し、希望者に血圧手帳を配布した。

地域職域連携モデル事業を活用した 家庭血圧測定の普及啓発	健康課	連携協定企業（生命保険会社）1 者の保険外交員が、市民（個人や企業）に対し、家庭での正しい血圧測定方法や血圧手帳を活用した記録の大切さ等について普及啓発を行った。
特定健康診査	保険年金課	国民健康保険加入者が多い団体への受診勧奨や商店街等、市民の目につく場所へポスターの掲示を行った。令和 6 年度の受診率は、3 月の速報値では 35.2%であった。
35 歳健康診査	保険年金課	未受診者に対し、9 月に受診勧奨はがきを送付。受診率は 5 月現在 14.0%であり、前年度と比べ増加
生活保護受給者等健康診査(40～74 歳)	健康課	受診者数 180 人 健診受診者は増加傾向
特定保健指導	保険年金課	令和 6 年度の委託実施では、生活改善の成果を確認できる測定型インセンティブを設けた。令和 6 年度の利用率は 4 月末現在 15.0%であり、昨年度同月 16.3%と比較し減少傾向にある。
特定保健指導 後期高齢者健康診査	保険年金課	令和 6 年度の委託実施では、生活改善の成果を確認できる測定型インセンティブを設けた。令和 6 年度の利用率は 4 月末現在 15.0%であり、昨年度同月 16.3%と比較し減少傾向にある。 令和 6 年度の受診率は 5 月現在、37.0%であり、前年度と比べ増加。
生活保護受給者等健康診査（75 歳以上）	健康課	受診者 174 人 健診受診者は増加傾向
糖尿病重症化予防のための健康相談	保険年金課	通知後、架電や家庭訪問を行い、協力専門医療機関への栄養相談を勧めた。協力専門医療機関に受診が難しい方に対しては、市で腎機能を維持するための栄養指導の実施を行った。特定健康診査受診者の 24 名。後期高齢者健康診査受診者の 14 名に支援を実施した。（令和 7 年 5 月現在の暫定値）
健診異常値放置者・治療中断者対策	保険年金課	【特定健康診査受診者】 ・前年度健診及びレセプト情報による異常値放置者及び治療中断者対策について令和 6 年度対象者を拡大し、令和 7 年 4 月末時点で計 281 名（健診異常値放置者 195 名、治療中断者 86 名）に対して医療機関への受診または保健指導を実施することができた ・当該年度健診でⅡ度高血圧以上の未治療者について令和 6 年度対象者を拡大し、令和 7 年 5 月時点で 128 名に対して保健指導を実施することができた。

		<p>【後期高齢者健康診査受診者】 高血圧重症化予防として84名、糖尿病性腎症重症化予防として35名に保健指導を行った。</p>
--	--	---

<p>取り組み結果から指標につながる成果</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・平塚市の健康課題が高血圧であることを伝え、高血圧予防と正しい血圧測定方法について普及啓発できた。 ・健診受診者の自分の健康に対する意識の向上や重症化予防につなげることができた。重症化予防事業では対象者を拡大し保健指導を実施することでかかりつけ医が定期的な血液検査や家庭血圧測定値により治療不要と判断された者もあり、その場で生活習慣の改善を目的とした保健指導を実施することができた
<p>次年度の計画</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・血圧プロジェクトの周知を推進する。また、血圧計の貸出や尿ナトカリ比測定の実施により、家庭血圧測定や高血圧予防・改善のための普及啓発を行う。【健康課】 ・集団健診の実施、重症化予防事業対象者へ分かりやすい健診結果及び身体状況の説明、事業効果の周知 <div style="text-align: right;">【保険年金課】</div>

【壮年期、高齢期】

ライフステージ	健康行動	市の取組
壮年期 高齢期		①フレイル予防の普及啓発（栄養（食・口腔機能）） ②フレイル予防の普及啓発（運動） ③フレイル予防の普及啓発（社会参加）

事業	担当課	取り組み結果
フレイル対策推進事業	保険年金課	・フレイルサポーター養成講座 フレイルトレーナーにより、フレイルサポーター養成講座を開催し、フレイルサポーター10人養成。
フレイル対策推進事業	保険年金課	・フレイルチェック測定会 公民館や自治会館等でフレイルチェック測定会を39回実施し、参加者数、計581人。参加者の年間目標の505人以上を達成。
フレイル対策推進事業	保険年金課	・カムカム教室 公民館や自治会館等でカムカム教室を21回実施。参加者数256人。 ・フレイル予防セミナー フレイル予防セミナーを1回開催。参加者数53人。

次年度の計画

フレイルチェック測定会を継続して開催する

【学童期、思春期、青年期、壮年期、高齢期】

ライフステージ	健康行動	市の取組
学童期 ～ 高齢期		骨粗しょう症予防のための生活・栄養指導

事業	担当課	取り組み
(指標 1-(5)~(6)「栄養・食生活」の事業と同様)	教育指導課、中央公民館、	
(指標 1-(7)~(12)「栄養・食生活」の事業と同様)	健康課、保険年金課	
(指標 3-(2)~(5)「身体活動・運動」の事業と同様)	総合公園課	
(指標 3-(6)~(8)「身体活動・運動」の事業と同様)	地域包括ケア推進課、 総合公園課	
骨密度測定における生活・栄養指導	健康課	骨密度測定を5回実施し、延717人が参加した。測定結果に合わせて、保健師と管理栄養士が生活・栄養指導を実施した。測定値が低い方には、医療機関の受診勧奨を行った。 20代から100歳代まで幅広い年代の参加があり、50代から70代の参加者が約7割を占めている。

次年度の計画
母子保健事業と同日に測定会を開催したり、子育て支援センターでの測定会を開催し、若い方への骨密度測定も積極的に行う【健康課】